

令和2年産大崎地域の 大豆作技術情報（第1号）

令和2年5月14日発行
宮城県大崎農業改良普及センター
TEL:0229-91-0726 FAX:0229-23-0910
<http://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

～栽培のポイント～

- ・排水対策を徹底しましょう。
- ・適期播種を行いましょう。
- ・土壌処理剤を適切に散布し、雑草対策を徹底しましょう。

1 ほ場の準備

(1) 排水対策

大豆は湿害に対して非常に弱い作物です。ほ場の排水対策をしっかり行いましょう。水分の多いほ場では、種子が酸欠状態となり腐敗してしまうほか、出芽後は根張りが抑制され、根粒菌の着生が悪くなり、生育不良となってしまいます。

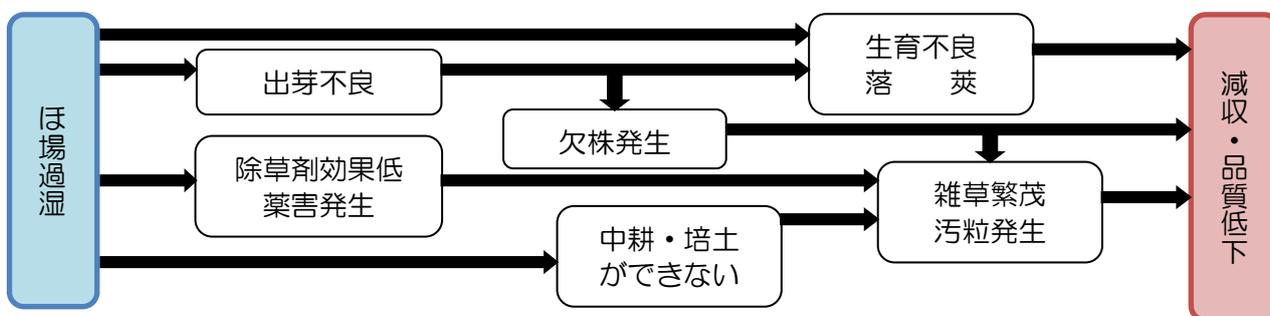


図1 湿害による影響

○明きよの施工

- ・ほ場の周辺とほ場内5～10m間隔に1本の割合で、明きよを掘り、ほ場外に排水できるようにしましょう。その時に、明きよは排水溝に必ずつなげましょう。

○補助暗きよ・心土破碎の施工

- ・補助暗きよ（弾丸暗きよ、穿孔暗きよ等）は額縁明きよと本暗きよにつないで排水路を作りましょう。
- ・心土破碎は下層部に形成される耕盤層に亀裂を入れることで、ほ場の透・排水性を向上させる効果があります。サブソイラ等を用いて、地下水位の上昇を防ぎましょう。



写真1 明きよと排水溝をつなぐ



写真2 心土破碎後のほ場

(2) 基肥 ～標準施肥量/10a～

窒素 1.5～2kg, リン酸 5～6kg, 加里 6～8kg

- 根粒菌による固定窒素の利用は発芽後2週間後ぐらいから始まりますが、その間は窒素の供給が必要です。
- 水田転作初年目の肥沃地あるいは野菜作の後作で蔓化の危険が予想される場合は、窒素分量を減らし、リン酸・加里を慣行量にて施用しましょう。

2 耕起・播種

(1) 耕起・整地

- 砕土の良否は、種子への水分吸収の阻害、土壌処理剤の効果に大きく影響します。そのため、砕土は直径2cm以下の小土塊の比率が70%以上、地表面には3cm以上の土塊が混ざらないように行いましょう。

(2) 種子の準備

- 種子伝染性病害である紫斑病の防除、鳥害忌避のため、種子消毒を行いましょう。クルーザーMAXXは、黒根腐病などの立枯性病害の抑制やアブラムシ類やフタスジヒメハムシの初期発生抑制に効果的です。

表1 種子消毒の薬剤

薬剤名	鳥害忌避	紫斑病	立枯性病害	害虫	乾燥種子 10kg 当たりの 使用量
クルーザー MAXX	ハト キジバド	○	苗立枯病(ピシウム菌), 茎疫病, リゾクトニア 根腐病, 黒根腐病	フタスジヒメハムシ, アブラムシ類, タネバ エ, ネキリムシ類	80ml
キヒゲンR-2 フロアブル	ハト カラス	○	苗立枯病	タネバエ	200ml

農薬の登録情報(令和2年5月1日現在)

(3) 播種

蔓化防止、生育量確保のため、適期に播種を行いましょう。

- 大豆の播種適期は他作物に比べて長いですが、開花期までの生育量を確保し、莢数を多くするためには、品種特性にあった播種様式が重要です(表2)。
- 播種適期よりも早く播いた場合、開花までの日数が長くなり、蔓化しやすく、落花、落莢が多くなりますので、注意しましょう。

表2 品種と栽植様式

品 種	栽培 様式	播種期	播種量 (kg/10a)	栽植密度		栽植本数 (本/m ²)
				畦間(cm)	株間(cm)	
タンレイ	普通播	5月下旬 ～6月上旬	3.6～3.9	75～80	20	12.5～ 13.3
	晩播	6月中旬 ～7月上旬	5.2～8.3	70～75	10～15	17.8～ 28.5
ミヤギシロメ	普通播	5月下旬 ～6月上旬	3.8～5.1	75～80	20～25	10.0～ 13.3
タチナガハ	普通播	5月下旬 ～6月上旬	3.3～4.4	75～80	20～25	10.0～ 13.3
きぬさやか	普通播	5月下旬 ～6月上旬	2.8～3.0	75	20	13.3

(4) 品種特性と栽培管理のポイント

品種毎の特性を知り、それぞれに適した栽培管理を行いましょう。

表3 品種特性

品種	タンレイ	ミヤギシロメ	タチナガハ	きぬさやか
熟期	中生	晩生	中生の晩	中生の晩
開花期	7/26	8/1	7/27	7/31
成熟期	10/16	10/30	10/21	10/19
病害 抵抗性	ウイルス病	中	中	強
	立枯性病害	強	弱	やや強
	紫斑病	中	強	やや強
加工適性	豆腐,味噌,醤油	豆腐,味噌	煮豆	豆乳,豆腐
主茎長 (cm)	77	106	83	70

(みやぎの麦類・大豆栽培技術指導指針より参照)

表4 栽培管理のポイント

品 種	栽培管理のポイント
タンレイ	<ul style="list-style-type: none"> 紫斑病に弱いので、防除は2回行いましょう。 粒肥大期始期に高温・過乾燥に遭遇すると「莢ずれ」の発生が多くなります。→高温や過乾燥が続く場合は暗きよを閉めるなど土壌水分の保持に努めましょう。
ミヤギシロメ	<ul style="list-style-type: none"> 蔓化・倒伏させないことが収量確保のポイントです。→地力が高いほ場では、過度な早播きを避け、播種量や栽植密度が過剰にならないよう注意しましょう。
タチナガハ	<ul style="list-style-type: none"> 粒肥大期の高温で粒肥大が著しく進むと「皮切れ粒」の発生が多くなるので、適期の刈取り、乾燥調製に努めましょう。
きぬさやか	<ul style="list-style-type: none"> 着莢位置が低い特徴があるので、刈取り高さを調整しましょう。

3 雑草防除 ～土壌処理剤～

(1) 土壌処理剤散布のポイント

- 砕土はできるだけ細かくしましょう。
→砕土不良の場合、処理層が均一に形成されず、除草効果が抑制されます。
- 適度な土壌水分時に散布しましょう。
→土壌が乾燥していると除草剤が拡散されにくくなります。
- 播種直後に散布しましょう。



図3 砕土不良による雑草発生

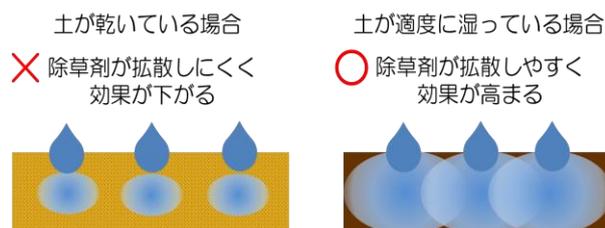


図4 土壌水分の違いによる効果の違い

4 放射性セシウム吸収抑制対策

令和元年産大豆においては放射性セシウムの吸収抑制対策の徹底が図られた結果、管内で生産された大豆は全て基準値（100 ベクレル/kg）以下でした。

実需者や消費者からは、令和2年産大豆においても安全な食品が求められており、引き続き放射性セシウムの吸収抑制対策をしっかりと行うことが極めて重要です。

① 20 cm以上を目標に深耕

ほ場内の放射性セシウムの偏りが生じないようにしっかりと耕起しましょう。

② 基肥に塩化加里を1～1.5袋/10a 施用

土壌中の加里濃度を高めましょう。

③ 基肥に苦土石灰を5～10袋/10a 施用

酸性土壌では放射性セシウムが植物に吸収されやすくなる傾向があります。大豆の適正土壌酸度（pH）である6.0～6.5に矯正するため、石灰質肥料を施用しましょう。

④ 収穫時のコンバインの刈高は10 cm

適切な刈高で土壌混入による汚損粒を防止しましょう。

東北地方 1 か月予報

（5月16日から6月15日までの天候見通し）

令和2年5月14日

仙台管区气象台 発表※抜粋

<予想される向こう1か月の天候>

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並みまたは低い確率とも40%です。降水量は、平年並みまたは多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並みまたは少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は低い確率50%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	40	40	20
【降水量】	東北地方	20	40	40
【日照時間】	東北太地方	40	40	20

<気温経過の各階級の確率（%）>

		低い	平年並	高い
1週目	東北太平洋側	50	30	20
2週目	東北地方	40	40	20
3～4週目	東北地方	30	30	40

4月1日～6月30日は「春の農作業安全運動」実施期間です。

余裕をもって作業し、農作業事故を防ぎましょう。

次号の「大崎地域の大豆作技術情報（第2号）」は6月中旬の発行を予定しています。

「大崎地域の稲作技術情報」, 「大崎地域の大豆作技術情報」, 「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索してください。